

『海紅』（山崎聰第一句集）より

鮑食うくたくたくたと春ネオン  
愛の形の壺光りだし桜吹雪  
胃の形して流木のあたたかさ  
一人でいてすかんぽの海明るすぎ  
恋雀そのほかも照り花菜の村  
葬送はうすむらさきの桜草  
めつむれば海見えてくる単線区  
繭煮られ終着駅の昼白し  
曇り日の花朴は白夜も見え  
死がありて紙一枚の朴の花

松村 五月 抄出